

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

小田原こども舞台芸術クラブ

所在地	神奈川県小田原市	設立年	2021年
運営主体	小田原こども舞台芸術クラブ		
事業目標	<p>東海道の要所であり、小田原城をはじめ歴史文化財を多く持つ神奈川県湘南地方に題材とした伝統芸能の舞台作品は多い。子供たちにそれらの作品を実際に演じてもらうことで、長きに渡って日本人の心を捉えてきた文化の価値を体感してもらう。また、伝統芸能は世代や地域を超えた発信力があることを体感する事で、文化の可能性を知ってもらう。</p>		
きっかけ	<p>かねてより地域の教育機関である「はじめ塾」ならびに「NPO法人子どもと生活文化協会」の協力の下、小田原の子ども達に能楽の指導を行ってきた観世流能楽師・長谷川晴彦が、伝統芸能の持つ教育的意義を意識しつつ、子ども達の学校環境や地域とのつながりを考慮しながら、能をはじめとした舞台芸術に親しむ環境を提供することを目標として、あらたに組織を設立し、子ども能楽クラブの事業を立ち上げるに至った。</p>		
団体・組織等の連携			
活動場所	小田原市生涯学習センターけやき、BLEND・POST		
活動概要	<p>子ども達は平日の夕方～夜の稽古(小学生は2時間。中学・高校生は3時間)に参加し、謡、仕舞、囃子、所作等を指導を受け、その成果を能舞台での発表会で披露する。プロの能楽師の指導を受けることは、技術や知識を得るのみならず、文化・芸能に真剣に向き合う姿に直面できる機会であり、物事に打ち込むことの大切さや姿勢を学ぶ貴重な体験となる。また、学校の授業などで時間を割くことの難しい、伝統的なことに取り組むことへの意義や価値観といったことを知る機会となっている。</p>		

○本事業による成果

- ・前年度に小田原市内で行った能楽教室の参加者は14名であったが、本年度の事業では21名の参加者を集める事となった。これは、今回の事業が子どもの参加費無料に設定出来たことにより、参加者の間口が広がったことに起因していると考えている。
- ・22回の稽古を行い、地元での公開稽古、横浜市内にある久良岐能舞台での発表会を実施。仕舞四番の他、プロの演奏とともに袴能「和田酒盛」を2番披露することが出来た。
- ・子ども達のアンケートでは、舞台を披露できたことへの充足感を述べると共に、能を学ぶことの難しさが語られていた。ただそれは、よく分からないことをやる前に感じる「難しさ」が、稽古を通してある程度出来たと思ったらまた次の課題が出てくるという「難しさ」に変わること、果てしのない「難しさ」とともにその奥深さを知った、というものであった。この感覚は伝統芸能に向き合う上で大変重要な本質を突いている。このような感想を書いてもらえたことが、何よりの成果ではないかと思っている。
- ・公開稽古や発表会を通して、子ども達の活動を支援してくれるサポーターを募集したところ、27人が登録。寄付金も44,538円が集まった。発表会を実施する上で、サポーターの協力は必至である。今年登録してくれた方の協力を仰ぎ、今後の活動の充実に繋げて行きたい。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・指導対象が下は小学校2年生、上は高校3年生と幅が広いと、指導方針は多岐にわたっているが、伝統的な決まり事を伝え、それにどのように対応できるかという個々の反応を見て、それぞれの創造性を潰すことのないよう指導している。これも能楽の持っている幅の広さ故に出来ることであると考えている。
- ・小学生の参加時間を早い時間に設定し、安心して参加出来るように考慮した。中、高校生は試験などで参加出来ない日もあるため、稽古日を多めに設定して全体として稽古が行き渡るようにした。
- ・稽古が後半になるに従って、指導内容が細くなるため、外部講師に指導してもら回数を増やし、指導の目が届くように工夫した。

○運営上の工夫

- ・稽古日の変更もあったため、混乱を起さぬよう稽古日の告知等、プリントを月ごとに配布することによって、正しい情報が伝わるように徹した。
- ・公開稽古や発表会での着付けに参加してくれるサポーターを対象に予め勉強会を行うことで、進行に支障を来す事無く作業を行うことが出来た。
- ・発表会をサポーターの協力によりネット配信することで、コロナ禍により来場できない父兄などにも、子ども達の頑張っている姿を即時性を以て届けることが出来た。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・本会の役員には長年地域で活動をしている教育機関である「はじめ塾」、「NPO法人子どもと生活文化協会」の関係者が入っており、地域の教育に関する状況や情報を得ることが出来、活動に興味を持ち、支援してくれる方への情報発信も可能となっている。
- ・本活動は小田原市、小田原市教育委員会からの後援を得ており、公共施設でのチラシ掲示、教育委員会経由での市内学校へチラシ配布をして貰うこととなっており、広く参加者を募ることが可能となる。
- ・活動場所としては、当クラブが非営利を趣旨とした団体であるという理解を頂き、生涯学習センターの登録団体となり、市の施設を使用している。ただ、コロナの影響で公共施設が使用できないこともあり、民間の貸しスペースであるBLEND・POSTを使用した。それによって、教育関係に関心のある市民活動のグループとの繋がりが出来、活動の理解へ広がり期待をしている。
- ・教育委員会での打合せでは、担当者が文科省から「地域文化倶楽部」についての指示などはない。ということで活動についての前向きな議論は出来なかった。そのような状況下、教育委員会としては、現場の反応が見えないとなんともいえないということであったので、2022年1月に行った公開稽古では参加生徒の学校長、教員へ来場を求めたが、コロナの蔓延防止状況下にあることで教員の派遣は出来ないという返答を何校からか得た。今後コロナの影響が収まった後に、再度交流の機会を設け、学校や教員との意思の疎通を行ってゆきたいと考えている。
- ・広く子どもの参加を募るため、会費は徴収しない方針である。
- ・本年度は市外の施設を使用する発表会を前に、スポーツ安全保険に加入したが、来年度からは活動開始と共に加入するように働きかけたい。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

・コロナ禍によって部活動の制限が実施されることによって、明らかに教員の勤務拘束時間の減少という結果が出ているようである。その一方、子ども達にとって、中学校などでやりたかった活動が出来なくて残念だという声が聞こえる。教員の働き方改革という方針がある以上、コロナ終息後部活動が元通りになるということは難しい。その中で、子ども達に様々な体験を提供できる場として、地域での部活動は受け皿として重要な役割を担うことと考えている。

・当クラブとしては引き続き「はじめ塾」との連携により、小・中・高という広い年代の子ども達のフォローが出来る環境を築いてゆく。また「NPO法人子どもと生活文化協会」との連携で自治体の補助についての情報を得るよう努める。

・小田原市、小田原市教育委員会からの後援を継続させ、公共施設でのチラシ掲示、教育委員会経由での市内学校へチラシ配布による広報に努める。また、市の文化政策課のアウトリーチ事業と連動させることにより、直接教員や生徒へアピールする機会を得るようにしたい。

・体育会系が地域部活動化において進んでいるように、文化部も今までのお稽古事と異なった側面をアピールし、活動を少しでも多くの人に知って貰うというのが当面の目標である。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

[※『地域移行\(展開\)を進める際のポイントチェックリスト』を参照すること。](#)

参加者 (予定人数)	小学生6人 中学生9人 高校生6人 今後の予定人数 20～30人
募集方法	学校・関係団体でのチラシ配布、公共施設・活動関連施設でのポスター掲示。
指導者	能楽協会所属の能楽師(当クラブ役員、外部指導者)
移動手段	当会からの依頼により、参加生徒の父兄等が送迎を行う他、徒歩、自転車を利用したの参加。
活動費用	参加者からの会費徴収はなし(謡本、白扇といった稽古用品は参加者負担)、令和3年度の指導者への経費は
スケジュール	6月参加者募集開始(チラシ配布)、7月～2月能、仕舞稽古(全22回)、1月30日公開稽古(リハーサル)、2月11日発表会、発表会同日に運営・検討会議開催
保険加入等	スポーツ安全保険を利用

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

【活動の様子（写真添付）】



謡稽古(指導・梅若紀佳)



仕舞稽古(指導・長谷川晴彦)



能稽古(指導・長谷川晴彦)



能稽古(指導・長谷川晴彦)



公開稽古



公開稽古



公開稽古



公開稽古

